

co-op

三重の生協の
今を伝える

みえの虹



No.120

2019年1月

三重県生活協同組合連合会

〒514-0009 三重県津市羽所町379
TEL.059-228-9913 FAX.059-228-9915

小さなつながりから 大きなひろがりへ

～私たちが安心して、地域の中でくらし続けるために～

2019年は新年号への移行をはじめ、国内外の情勢が大きく動き、国民的議論が求められる時期ではないでしょうか。三重県生活協同組合連合会でも、昨年に引き続き消費税増税、平和憲法などくらしにかかわる大事な情勢の動きを常に見据えながら、私たちが安心して、地域の中でくらし続けられることをめざし、みなさまとともに活動をすすめてまいります。また、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すSDGsに、生協の役割や地域からの期待に応えるために、取り組みをすすめます。2019年もみなさまと一緒にどうぞよろしくお願い申し上げます。



▲2019年初日の出 大王崎より

2018年10月30日

消費生活協同組合（連合会）等に対する厚生労働大臣表彰を受賞しました

消費生活協同組合（連合会）／団体
生活協同組合コープみえ

消費生活協同組合（連合会）／個人
江上昭治氏（現：みえ医療福祉生協理事長）



▲生活協同組合コープみえ
西川理事長



▲みえ医療福祉生活協同組合
江上理事長

消費生活協同組合法施行70周年を記念して、法の理念にのっとり健全な事業経営をおこなう、他の規範と認められる消費生活協同組合（連合会）と組合役員に対する、厚生労働大臣表彰として、三重県からは団体として生活協同組合コープみえ、個人としてみえ医療福祉生活協同組合の江上昭治理事長が受賞されました。

一人は万人のために 万人は一人のために

生活協同組合
コープみえ

みえ医療福祉
生活協同組合

三重県学校
生活協同組合

三重大学
生活協同組合

三重短期大学
生活協同組合

三重県立看護大学
生活協同組合

三重県労働者共済
生活協同組合

活動報告

コープくらしのフェスタ 小さなつながり♥大きな笑顔

開催しました

テーマ 地域のちからと人のつながり
コンセプト 一人ひとりが地域のちからです。そのちからのつながりに生協は関わり、組合員と地域のみなさんの身近な存在になっていくことをめざします。

11月18日(日)
時間：10:30～15:30
場所：三重県教育文化会館6階
多目的ホール

ステージ企画では三重県住みます芸人でJA津安芸の農業PR隊長でもある「カツラギ」のお二人の笑顔になるステージと、昨年甲子園に出場した白山高校の川本牧子部長のトークライブを企画し、笑顔のステージとなりました。



ブースコーナーではコープみえ・みえ医療福祉生協・三重大学生協・三重県学校生協・三重労済・JA津安芸・三重県漁連・三重県ユニセフ協会・消費者市民ネットワークみえが、それぞれブース出展し、コープ商品、地元の野菜、海産物、お茶や開発商品などの販売、健康測定やクイズ、くらしの相談コーナーなどの出展がありました。

参加した方からは「楽しく参加できました」「川本部長のお話がよかった」「地元の野菜が買えてよかった」など嬉しいお声をたくさんいただきました。生協どうしのつながりがより強くなり、また新たなつながりもできました。



活動報告

消費者市民ネットワークみえ「くらしなんでもカフェ」活動中

出入り自由の情報交流の場です



▲お茶とお菓子を用意してお待ちしています。お気軽にどうぞ...

第1回 2018年11月30日(金) 18:00～20:00
第2回 2018年12月19日(水) 17:30～19:30
場所：アスト津みえ県民交流センター

第1回では大学生の参加があり、若い人の意識など知ることができました。また「卒論につながる情報をもらえました」と喜んでいただきました。第2回では参加者も増え、弁護士の先生も参加していただいたので、くらしの中の気になること等、気軽にお聞きでき、和気あいあいとした情報交流の場になりました。

毎月1回の開催予定です

活動報告

三重県議会と懇談・県政要望の機会をいただきました



▲11月14日三重県議会正副議長との懇談

2018年9月から11月にかけて三重県議会自由民主党県議団との懇談に引き続き、正副議長との懇談、新政みえとの懇談の機会をいただきました。くらしにかかわる地域の諸問題について要望することで、より安心してくらし続けられる社会になることをめざします。

県議会より、「生協連からの要望は、2018年11月三重県議会定例会において所管の常任委員長並びに各会派に配布のうえ周知するとともに、併せて関係部局にも伝え、要望内容を参考にしながら、さまざまな機会を捉えて議論をかさねる」というご回答をいただきました。

災害時の子どもの居場所とこころのケア 「子どもにやさしい空間(CFS)」研修

三重県ユニセフ協会と共催で開催しました

【日 時】2018年12月18日(火)

【場 所】コープみえ本部

【主 催】三重県ユニセフ協会

三重県生活協同組合連合会

【参加者】28名

三重県では南海トラフや台風など大規模な災害が想定されています。甚大な被害の中での避難所生活は、子どもたちにとって不安な時間を過ごすこととなります。そのような時子どもたちにとって安全で安心して過ごせる居場所、空間づくりが大切になってきます。その空間づくりをどのように私たち運営者や災害対策にかかわる関係者が関わっていくかなど、その一助となるよう災害時の子どもにやさしい空間づくりを学びました。

いざという時のために一人でも多くの人たちが、不安な子どものための居場所づくり「やさしい空間」やその必要性に関心をもってもらうことを、三重県ユニセフ協会とともにひろめていきます。



講師に小野道子氏(災害時こどものこころと居場所サポート副代表)をお迎えし、三重県教育委員会・会員生協役員職員・ユニセフ協会関係者の方々の参加で、『子どもにやさしい空間』ガイドブックに沿って、実際に運営する側として活動内容や場所、設備などをグループで考え合いました。

支援活動

3.11を忘れない

—復興を担う女性たち—

みやぎ生協から被災地・宮城の
いまをお伝えします。

第65回2019年1月5日

「小さな人々にスポットを当てたい」タガの柵(き)

多賀城市は、千年前の大津波が古文書(※)に記されている町です。貞観地震によるもので「千年に一度の大津波」という表現はここから来ています。東日本大震災では工業地帯や市街地を津波が襲いました。大きな製油所火災が起き、浸水域は町の3分の1に及びました。

「いま街を歩くと、本当に津波が来たの?と思うぐらい復興はした。でも小さなところに目を向けるとまだまだだと思う」。多賀城市でコミュニティカフェ「タガの柵」を運営する松村正子さん(まさこ)は、そう言います。

松村さんは震災後ふるさとの多賀城に戻り、母親が参加していたまちづくりの市民活動を手伝うなかで、地元の小さなお店や商品の作り手と知り合います。「震災で苦労して再建した話やこだわりを持ってモノを作っている話を聞き、その感動を地域住民や観光客にも届けたいと思ったんです」。

松村さんは地元の小さな店や作り手の思いが伝わる商品を販売で

きる場所をつくろうと考え、起業家育成の講座に通ってノウハウを身につけます。そうして2014年夏、JR陸前山王駅の目の前に「タガの柵」をオープンさせました。

「タガの柵」のユニークなところは、地元の店と連携した体験ツアーやイベントにも取り組んでいることです。商店街ツアー、味噌づくり体験、コーヒー教室などお店の人と交流しながら、多賀城の魅力を知る内容になっています。「復興の大きな歩みのもとでは目立たないが、震災を乗り越え、地道に歩んできた“小さな人々”にスポットを当てたい」という松村さんの願いが、そこには込められています。

震災を学ぶツアーも行なっています。「ツアーで回ったお店の人が自分たちでさえ震災を忘れることがあるのだから伝えていかなければ、と言っていた。時間が経ったから喋れるという人もいます。復興した街並みを見るだけでは伝わらない部分を伝えていくのも大切だと

感じています」。

タガの柵には様々な人が集います。「多賀城で新しい活動をしたい、被災した地元へ何か還元したいと考えている人たちを応援し、つなぐ場でありたい」。松村さんの考える多賀城の復興とは、そうした“小さな人々”が生き生きと活躍できる町になること。ふるさとへの思いをタガの柵に託して、発信を続けています。

※『日本三大実録』 869(貞観11)年、貞観地震による大津波が陸奥の国府多賀城まで押し寄せ、千人が死亡したと記されている。



▲松村正子(まさこ)さん。店内には古代米、わかめスープ、焼菓子、コーヒー、ハチミツなどメイドイン多賀城の商品が並んでいます。

おしらせ

2018年度 さよなら原発三重パレード さよなら三重原発パレード&マルシェ

【日時】 2019年3月21日(祝・木)
【場所】 三重県総合文化センター
イベント広場&多目的ホール

さようなら原発三重パレードとは

2011年3月11日に始まった原発震災は今も復旧・復興の最中にあります。三重県生協連は、原発に頼らない、持続可能で平和な社会をめざしています。原発を永久に止めることをめざし、主旨を同じくするみなさん・諸団体とご一緒に、声をあげ、集い、パレードをおこなっています。

【開催内容】☆ 講演…大島堅一「原発はやっぱり割に合わない?!」
(予定) ☆ コンサート…川口真由美さん + バギヤン
☆ マルシェ ☆ アピール ☆ パレード



▲2017年度のパレードの様子
(1,000名の参加)

三重県生活協同組合連合会 上野会長理事 (連載)

清水(しょうず)、あれこれ

先日、テレビで放映された映像の中に、水をもとめる痩せ細った子どもが泥水を手ですくって飲んでいる姿に心を打たれた。

水にまつわる話題である。

日本は、古来より水に恵まれた地域である。そのためか、水への執着は比較的緩い。しかし、良くも悪くも、水にまつわる話には事欠かない。とくに「この川は、暴れ川だ」とか、「しっかりと治水をしなければならぬ。」など、治水政策がこの地域の政治や経済を左右させてきた。それが、民(たみ)に水に対する信頼をもたらしてきた。私の生れた土地は徳島である。幼い頃に祖父母から聞かされた話の中で水にまつわる話題も多かった。祖父母はブラジル移民を経験したが、水の大切さを切々と説く話しぶりに幼心にも感銘を覚えた記憶がある。

日本の水事情は、世界の国々の中でも、極めて良質である。そして、このことは、この地域の伝統でもある、水文化を生み出している。その一つを紹介する。以前私は、ある雑誌に「清水」と書いて「しょうず」と読むという地域を紹介したことがあった。広辞苑によれば、「清水」とは、「湧き出る清い水」、地下からの湧水のことと記されている。このことから「清水」を「しょうず」と読むか、「しみず」と読むかはその地域の表現の仕方であり、深い意味はないのではないかと、という批判的意見もある。しかし、「しょうず」という表現は、滋賀、福井、石川、富山、岐阜の一部という北陸から中部地方に向かう地域に連なっているところにみられた。このような広がりを見せたなかに何があったのか、何が出てくるか、私の胸中に生息している、こだわり虫の「しょうず」文化を探る旅へとつながっていく。

ところで、このような水にまつわる文化の探索は、私たちに水に対する畏敬の念を起こさせても来た。私たち、人類はじめ、すべての生物は水がなければ生きることができない。地球が水の惑星といわれる由縁である。



理事会 だより

2018年度第3回

協議決定事項

- ・2018年 役職員研修/視察について
- ・コープくらしのフェスタについて

協議事項

- ・三重大学人文学部特殊講義「協同組合論」の次年度以降の継続について

報告事項

- ・8-9月度および累計(上半期)決算報告
- ・2018年度三重県議会との懇談について
- ・三重県議会/自由民主党県議団との懇談報告
- ・三重県協同組合連絡協議会(MJC)/協同組合学習のフォローアップ研修開催報告
- ・2018年度さようなら原発三重パレードについて
- ・県連/専門委員会等 開催報告
- ・平成30年度三重県食の安全・安心確保のための検討会議報告

2018年10月9日(火)
15:00~16:30
生活協同組合コープみえ本部
3階会議室

2018年度第4回

協議決定事項

- ・三重大学人文学部特殊講義「協同組合論」の次年度以降の継続について
- ・第43回通常総会の日程・会場について

協議事項

- ・消費税増税の情勢と取り組みについて
- ・平和憲法を「改定」させない取り組みについて
- ・SDGsにかかわる生協連の役割とすすめ方について

報告事項

- ・10-11月度および累計 決算報告
- ・2018年度/コープくらしのフェスタ開催報告とまとめ
- ・2018年度/第41回東海北陸生協行政合同会議(三重県開催)報告
- ・消費生活協同組合(連合会)等に対する厚生労働大臣表彰/受賞報告
- ・三重県議会(正副議長・新政みえ)との懇談開催報告
- ・役職員研修/みやぎ視察について
- ・2018年度/「さようなら原発 三重パレード」について
- ・県連/専門委員会等 開催報告
- ・2018年度/沖縄戦跡基地めぐりの生協連からの派遣について
- ・三重県ユニセフ協会共催/災害時の子どもの居場所とところのケア
- ・「子どもにやさしい空間(CFS)」研修開催報告

2018年12月26日(水)
14:55~17:30
生活協同組合コープみえ本部
3階役員会議室